推薦入試合格者への入学前学習に関する教育的実践（6）
―自己課題と知識問題演習の振り返り―

川原　誠司

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要　第7号　別刷

2020年8月31日

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要　第7号　2020年8月31日

推薦入試合格者への入学前学習に関する教育的実践（6）†
―自己課題と知識問題演習の振り返り―

川原　誠司*
宇都宮大学共同教育学部*

本稿では，第1報（川原・石川・宮代・久保田，2020）で示した宇都宮大学共同教育学部教育心理分野の推薦合格者に対する入学前学習のあり方の改善の中で，3つの柱の中の2つ目と3つ目の柱である自己課題と知識問題演習の振り返りから検討するものである。自己課題については，仲間とのやりとりの中での適切な比較やリーダーシップのあり方などについて合格者が内省されたことがうかがえた。また，知識問題演習については，十分に解けなかったと振り返る者が多く，教員採用試験に向けて早めの取り組み意識を涵養できたことがうかがえた。

キーワード：推薦入試，入学前学習，自己分析，知識問題

1．2つ目の柱と3つ目の柱

今回の入学前学習支援に関する一連の報告について，第1報（川原・石川・宮代・久保田，2020）で全体像を述べた後，第2報から第5報までは1つ目の柱である新書課題による専門性の導入について各領域別におこなった。本稿では第1報で述べた2つ目の柱である自己課題と3つ目の柱である知識問題演習について，その実践内容を振り返り，質問紙調査における推薦合格者の回答を基にその意義を検討するものである。

2．自己課題について

（1）自己課題の内容

自己課題については「自分自身のあり方を見つめること」と「他者とのつながりを作ること」という2つの要素から考慮した。他者との関係性まで含めた自己分析課題と位置づけた。自分と周りのありようを見つめて，これからの自分の意識や心がけや心づもりを見つめてもらうものである。

自己分析については計4回の課題を課した。各回1000文字程度の筆者作成の文章を読んでもらい，それに関連した調べ課題やチェックリスト評定などを通して，計1200文字程度になるように自己分析の文章作成の課題を出した。各回のトピックとしては，1）推薦合格についての世の中の意識と自分自身の心づもり，2）自己紹介と仲間への質問，3）仲間からの質問への回答と自分なりのリーダーシップの取り方について，4）積極的な学びの意識と自分の現在のテーマ，といったものである。

また，他者とのつながりを作ることについては，仲間とのつながりについては自己分析の際に仲間に質問し，仲間の質問に答えたりすることで，またポスター発表（次々項の（3）で説明）の際に仲間のものを見ることで考慮した。教員とのつながりを作ることについては，川原・石川・宮代・久保田（2020）の1つ目の柱の新書課題において提出課題にコメントをすることで，また入学前学習支援の最後に各教員からメッセージを送ることで考慮した。在学生（先輩）とのつながりを作ることについては，推薦合格者がポスター発表の原稿を作成し，その発表に対して在学生がメッセージを書き（次々項の（3）で説明），そのメッセージを推薦合格者に送ることで考慮した。

---

† Seishi KAWAHARA*: Educational practices in pre-admission studies for students selected by recommended admission (6) : Reflection on the self-analysis task and general knowledge drill
Keywords: recommended entrance exam, pre-entrance learning, self-analysis, knowledge question

* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University
（連絡先：kawahara@cc.utsunomiya-u.ac.jp）

表1　自己分析の課題をおこなってみての合格者の感想

【Xさん】
自分以外の人の自己課題の発表を見て，自分では気づくことのできなかった未来の教育現場で起こることが予想される問題などを知ることができ，自分の視野を広げることができました。特に，他の方が述べていた関心ある内容についての今後の対応について，自分も今のうちから考えを深めていきたいと思いました。

【Yさん】
全体的に自分のことを振り返り，言語化する作業が多かったので，自分のことを改めて振り返ることができてよかったし，それを，自分を全く知らない人に，“わかりやすく”“端的に”伝えることは，いくら練習しても難しいものだなと痛感した。

やっていてとても面白いなと感じたのは「リーダーシップに関する質問」。ああいう風に質問から自分の本質を見抜くことは大学に入り研究していく中でも必要なものだし，リーダーシップの質問があったことも驚きだった。

「リーダーシップを発揮する中で気を付けなければならないこと」や「自身の紹介」の課題を行う中で，人間関係を形成する上での自分の弱みや強みが，言語化することで明確にすることができた。大学に入り，学部，分野の中でリーダーシップをとるためにも自己分析を入学前に行えたことはとても大きかったように感じる。

【Zさん】
「リーダーシップを発揮する時に気をつけなければならないこと」という課題で，私は自分の長所が時には短所になってしまうということに気づきました。

高校で重要な役職を務める中で最も大切にしていたことは，「どんなに忙しくても，決して活動に対するやる気，熱意は絶やさない」ということでした。忙しくて大変な時こそ笑顔で声を掛け合い，自分が務めをきちんと果たすことで他の役員に活動の楽しさや達成感を感じてもらいたいと思いながら仕事をしていました。

しかし，役員内でやると決めたことへの熱意に温度差が生じ，上手に運営ができないことがありました。その時は「なぜ？！」と苛立ちを感じていましたが，今回の課題を通して当時を振り返り，集団の中に物事に対する熱意が自分と同じ温度でない人がいるのは当たり前だと気づきました。

自己課題を通して，自分の長所は，集団活動において時には仲間に不快な思いをさせてしまう場合があることに気づくことができました。大学でのリーダーシップのとり方を考えるきっかけになりました。

(2) 自己課題についての推薦合格者の感想

自己分析の課題をおこなってみての推薦合格者がどのように感じたか，入学前学習支援の最後におこなった質問紙の回答を基に検討する。

推薦合格者の記述を表1に掲載した（あまりに具体的な情報については削除や曖昧化をおこなっている）。Xさんは他の仲間と比べることで，自分自身の視野の拡がりを感じたようであった。各自の視点に優劣はないのだが，自分にはないものを見たときに「気付かされるものがある」という思いを強くしたのだろう。

YさんやZさんの記述では「リーダーシップ」ということに関しての印象が多く残されていた。推薦合格者にはリーダーシップを期待しているという文章を読んでもらい，しかし，そのリーダーシップというのはステレオタイプの「大きな声で引っ張っていく」ということだけでなく，その人なりの形で集団の中で支えたり，分析したり，感情共有したりすることができ，それによって集団を前向きにすることが可能であることを伝えた。その自分なりの形を知る手立てとして，簡易な質問項目を自作して準備し，その項目はエゴグラムの5つの意識領域について集団のリーダーシップと関連する形で文章化した。その5項目を各々5段階で回答してもらうという方式をとったのだが，そのような数値的な指標も推薦合格者の内省を深めるために利用しやすかったのであろう。

(3) つながり作りについての推薦合格者の感想

質問紙調査でのこの面に関しての記述を表2にまとめている。

仲間とのつながりについては，3人全員が触れている。同じ立場のもの同士だからこそ，感じ取れる部分は大きいものがあるだろう。今回は課題上での質疑など，教員設定の課題を通しての交流のみに留めた。当然，昨今の機器やSNS機能を使えば私的に活発に交流することも可能ではあるが，この時点では課題を通しての互いの様子を見つめてもらうことに留めた。大学入学後での積極的な構築や直接的交流に期待したい。

表２　他者とのつながりづくりに関する合格者の感想

【Xさん】

他の合格者と質疑応答を行ったことや，自己課題の発表を見たりすることで自分には思いつかなかった考え方や，今後の研究のテーマを持っていて自分は，圧倒的な遅れを取っていると感じました。この差を埋めるためにもこれからの学校生活を大切にすることで，成長できるようにしたいです。

自分だけではなく，様々な人の意見を聞き，考えを深めていくことの大切さを改めて知ることができました。

【Yさん】

やはり，自分が思ったことや考えていることに対して，その分野の先輩や先生方から意見を頂けることは，自分の考えを深めたり，自信につなげたりすることのできる素敵な機会だと感じた。仲間との質疑応答の中からでも，教育に対する考え方の違いや性格の違いなどが文面ににじみ出ていて，やり取りをしていてものすごく面白かったし，大学生活の期待が大きく膨らんだ。

ただ，先輩方からのコメントの中には，「頑張って」の一言だけで済まされているものだったり，「高校生の時はそんなこと考えられていなかった」という謙遜なのか自己否定なのかわからない言葉も多々あったりした。もちろん，一言でも言葉をもらえるだけでもものすごくありがたかったのだが，何かもどかしい気持ちになってしまったりもした。

【Zさん】

仲間の「現在考えている学びのテーマ」(最終課題)は私が研究したい内容であり，自分の興味分野と同じことに関心のある仲間に出逢えたことに嬉しく思いました。それぞれにロールモデルとする先生がいて，これから4年間その憧れの先生を目指して切磋琢磨できることに幸せを感じました。

先輩方からのコメントの中には，私の掲示物を褒めて下さったものが沢山あり，お世辞が含まれていると分かっていても嬉しかったです。私の興味分野に合う映画を紹介して下さった先輩もいらっしゃいました。今回の映画のようにおすすめの教材等を教えていただけるよう，先輩方との繋がりを大切にしたいと思いました。

先生方からのコメントは毎回楽しみにしていました。厳しい日もあれば褒めてくださる日もあり，どちらも自分の気持ちを引き締めるきっかけになりました。

先輩とのつながりについては，図1を参照してもらいたい。分野の卒業論文発表会のときに図のように同時掲示し，それを在学生に見てもらい，メッセージカード（A4判の4分の1の大きさ）に応援メッセージを書くというものであった。これは推薦合格者側だけでなく，在学生側に対しても思いやりやメッセージを送る能力を涵養する意図があった。

表2においてYさんやZさんが直接言及してくれていたが，Zさんが自分の興味に沿った映画を紹介してくれたことをありがたいと感じた一方で，Yさんからは表面的なメッセージに具体性を感じ取れず

図１　実際のポスター張り出しの様子〔左上〕と在学生（先輩）が書き込んだメッセージカード〔右下〕

に困っている姿が見て取れる。在学生が学びを媒介して応援する力はまだまだ途上と感じられ，今回の推薦合格者が学内で成長し，次の学年を受け入れるときに，今回の経験を踏まえて，次の世代に具体的な温かいメッセージを送る気持ちを持ってくれるのではないかと期待している。

3. 知識問題演習について

今回おこなった知識問題演習は，教員採用試験の一般教養問題である。出題内容は中学校の内容を中心に各教科にわたる。また，時事問題やマナー問題なども含まれている。推薦合格者には，40分程度で終わるような問題のセットを1，2回目は5つ分，3回目は3つ分郵送した。時間を計ってまずは何も見ずに解いてもらい，次に調べてよいので自信のないところを解き直すように指示した。それを返送してもらい，教員が添削した上で返却した。添削の段階で間違っているところは再度復習を依頼し，そのやりとりは電子メールにておこなった。

推薦合格者の感想を表3に載せたが，記載してくれた2名の方が，基礎学力向上の意識を感じてくれていた。教員からは採用試験合格の目安の数字も示

表３　知識問題演習に関する合格者の感想

【X さん】

中学校で習い，見覚えのある問題はたくさんあったが，公式や解き方を覚えていないものがたくさんあり自分の力が足りていないことを実感しました。今回解いた問題を卒業時には完璧に解けるように努力していきたい。

また，わからない問題などがあったときには，同じ教師という夢を持つ仲間と相談をしながら解決していきたいと思います。

【Z さん】

知識問題演習を通して，基礎学力定着の必要性を感じました。

解く中で，授業などで類似問題を解いたことは覚えているが解法を忘れてしまった，2択で迷い正解にたどりつけないという場面が多くありました。それは基礎知識の欠如と，演習不足で知識の定着ができていないことが原因だと思います。

これからは「これはこれ」，「この解法を使えばこれが求められる」など，正解に自信が持てる，正解を選んだ根拠をしっかり述べられるように学習をしていきたいと思います。

また演習の中で，傾向があるように感じました。特に理科の塩化銅水溶液の電気分解は何度も出題されていました。教員採用試験を受験するまでに傾向を掴み，本番で高得点が取れるよう努力していきたいと思いました。

したので，自分の正答率とも比較できているようであった。現状で到達していなくてもよいものの，一般教養試験の問題は，既習の知識で取り組めるものなので，入学後早期から取り組めることにつなげてもらいたいし，教員側としてもその環境整備を行う必要があるだろう。

図2に実際の解答と添削の様子を掲載したが，途中式等も残して考えてくださいという指示を丁寧に踏まえて一生懸命取り組んでくれたことが分かる。この意欲を正答という形にまで昇華させる意欲は大学入学後の課題となってくるので，情報提供や具体的援助をしていく中で支える必要がある。

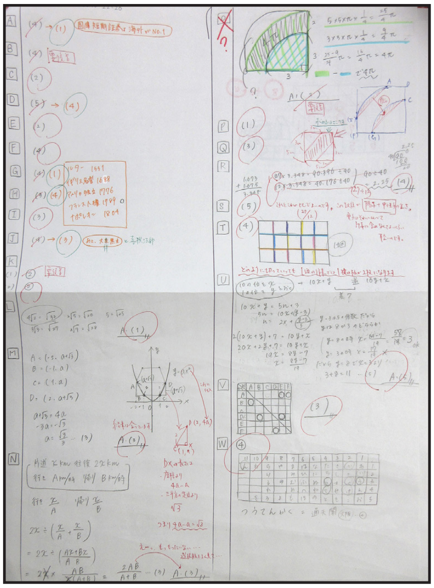

図２　実際の知識問題解答の様子と添削の様子

4. 今回の入学前学習支援の意義

今回の入学前学習支援が「本当に効果があったかどうか」は入学後の推薦合格者の様子で明瞭になってくるだろう。肯定的な様子をさらに支えて好循環を生み出せるような支援を今後も続けたい。

目に見える数値ではないものの，支援内容の3つの柱に関して「専門領域の難しさと思考することの大切さの意識」「自己の丁寧な分析と周りとのつながりの実感」「自らの知識力の確認と向上への意欲」といった部分が質問紙調査からは垣間見られるので，一定の影響はもたらせたように受け取れる。

副次的なものとして，メールのやりとりの向上など他の力も伸ばせたように感じる。推薦入試につきまとう安直な負のイメージをこのような実践の積み重ねで変えていきたい。

引用文献

川原 誠司・石川 隆行・宮代 こずゑ・久保田 愛子（2020）．推薦入試合格者への入学前学習に関する教育的実践（1）――改善に向けて――　宇都宮大学教育学部実践紀要，*7*.

令和２年４月１日 受理

Educational practices in pre-admission studies for students selected by recommended admission (6) : Reflection on the self-analysis task and general knowledge drill

Seishi KAWAHARA